

「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部3年 伏屋 祐希

①学習成果

軽い気持ちで参加した留学だったが、2週間のコースを通して、今後の語学への学習意欲が非常に高まるとともに、これまで関心を持っていなかった日中間の歴史を学びたいと思うようになった。語学への意識が高まったのは、現地で他の留学生や中国人学生と、もっとスムーズに話をしたいと感じたため。ぎこちない英語やほぼ話せない中国語での会話は、勉強にはなったがもどかしさが強かった。また、中国をはじめとしたさまざまな国の人と顔と顔を合わせて交流することで、歴史や国際政治の問題を、非常に現実的で多くの人の実生活に影響を与える問題であると捉え直すことができた。全体としては、多くの多国籍の学生との交流から得る刺激や新たな視点は多く、今後予定しているイギリス留学がより楽しみになった。

②海外での経験について

街のレストランも学食も美味しく、食事に困ることはなかった。浙江大学の周辺では、日本より物価が安いからだった。治安も良く、電車・バス・タクシーは使い勝手が良かった。杭州の街の人は、日本人よりもずっとフランクで、街で気軽に話しかけられたが、中国語が聞き取れないので何を言われているか分からず残念だった。水回りは、寮のシャワー室とトイレが一つの床に並んでいたり、全ての場所でトイレに紙を流せなかったり、不便も多かったが、数日で慣れた。必要なものはほとんど寮の向かいの売店に売っていたので、心配はなかった。

③プログラム内容について

午前中に授業、午後に自由行動というスケジュールが良かった。午前は集中して勉強に取り組みやすい時間帯だし、11時半ごろに授業が終わるので、学食でお昼を食べても、十分に近くの観光地で遊ぶことができた。バスで少し離れた施設へ連れて行ってもらえたのも、ありがたかった。バスで連れられて行って見た、安藤忠雄の建築と西湖近くの茶畑が印象に残っている。また、京大以外に3大学の学生と同じプログラムだったのも、とても良かった。東京の学生と進路や大学生活について話すことで、自分の置かれている環境を相対視して考え直すいい機会になった。

④進路への影響

このプログラムに参加する前に、今年秋からの1年間の交換留学が決まっていたが、プログラムを終えて、近現代を中心とした歴史と英語の引き続きの勉強の必要性を実感した。交換留学では、語学ではなく自分の専門領域の勉強を英語で行う予定なので、より一層の英語力が必要になるだろうと思う。今の自分の語学力では到底足りていないと感じた。また、それより先の将来についても、英語を使った仕事や日本以外で働くことが選択肢に入るようになったと思う。